

(2) 漆剤の調整

漆剤での発泡現象は油脂系や溶剤類の混和剤を添加することによって、その防止は可能であり、これには乾燥や被膜性から密着性試験の役割が大きいと思われる。この経過等から今のところ、油性系の消泡剤が最も適した発泡防止剤である。

(3) 応用化

平面蒔絵から、曲面簡易転写装置の改良を行い、小型紋様においては活用出来る段階になった。なお美術工芸品・土産品等の絵付けや文字入れ等への応用化も計った。

20 木製家具の研究と試作

東郷信王 菊池 元 末吉光雄

目 的

本県は、楠、榿、屋久杉の産出県で、この木材の活用と付加価値のある高級家具用材としての利用化と合せ、構造仕口及び接合部に対する接着性等を研究し、業界へ木材の有効な利用法等の普及に努め、特に屋久島地区加工組合員の技術向上と加工治具を用いた技術普及による安全作業を目的とする。

概 要

1. 榿材利用のリビングセットは、住まいの憩いの場所として利用出来るように曲線を多用して滑らかさを表わした。
2. 楠材は従来抽斗の側板及び彫刻材等に使われていたが、書棚、整理タンス、文机等に使用表面の漂白処理でウズクリを行い、桐製家具の感じを表現するよう試みた。
3. 屋久杉利用の飾棚、整理タンスは屋久杉の杓目に上杓、中杓、荒杓に大別し上杓はスライス又はロータリー加工で化粧合板家具に使われている。中杓以下の木材は利用度が低い。この種の木材をソリッド材で使用し付加価値を高める目的で研究試作し講習会を開き技術普及を図った。

成 果

1. 榿材を洋家具材としてリビングセットを試作したが、問題点は乾燥と接合部の接着性にある。乾燥は無理な乾燥法をさけて平衡含水率まで養生することで狂いも少なく、加工性も容易である。接合接着の強化にダボ構造及び緊結金具と酢ビ系接着剤を用い組立てることで強化出来る。

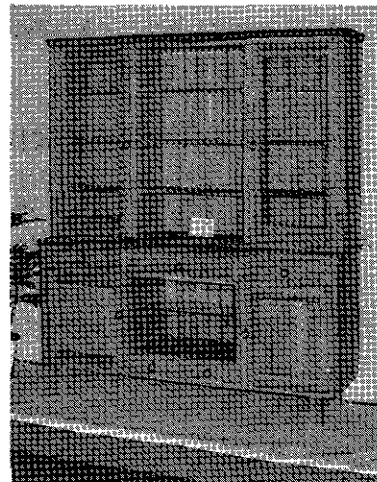
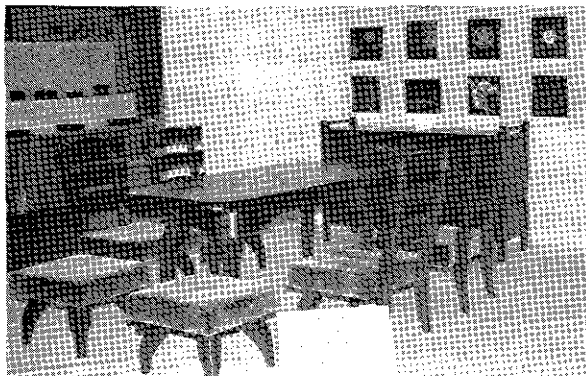
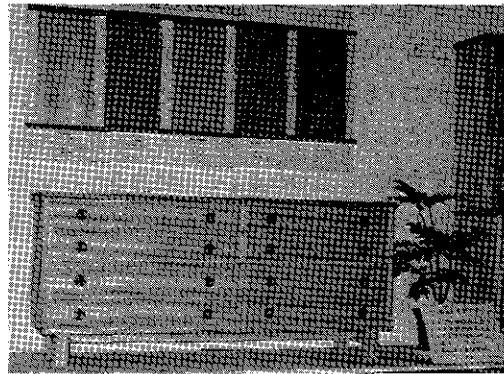
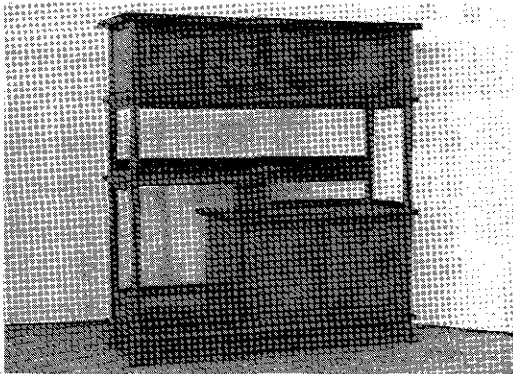
曲線を多用したデザインのため加工治具等で構造仕口の均一化を図った。

椅子の座が全体の曲線に比較してアンバランスの感がするが、全体から見ると曲線家具としてユニークに感じた。

2. 楠の柾目材を使い桐タンス調仕上げとしたが漂白処理研究の必要性を感じた。処理後の経過時間を充分に取らないと塗料と漂白剤で化学変化をおこすことがある。
3. 屋久杉は鹿児島県がもっとも誇れる銘木で、年々減少しているのが現状である。この屋久杉を細く永く使うことを重点に中杓目以下の利用化を図り、ソリッドの乾燥中の木口ヒビ割れ防止を必ず行い歩留りを良くする。

屋久杉とクワ材の併用を試み摺うるし仕上げ後、クワ材の特徴としての色調が出たことで調和がとれた。

これ等の研究試作品は全国試験場展“住まいと暮らし”の総合展に出品、技術講習会等を開き参考品として好評を得た。



② 仏壇の構造仕口の研究と試作

榎山和實

目的

大型化の傾向にある川辺仏壇の構造、仕口の改善と伝統技法の標準化を研究し試作を行う。

概要

需要が大型化しているために、従来製造していた小型仏壇から、中型、大型と急激に変化して来ている。そのため仏壇の大きさによって、部材の長さ、幅、厚さ等は勿論のこと構造、仕口も改善しなければならない。

(1) 設計図の作製

今回は18型の仏壇について、業界の設備及び技術を充分考慮して設計図を作製し、塗装組立てられる部品別現寸図を併記した。漆塗装の塗

り代りを1.5%に規正した。

(2) 設計図による試作

川辺仏壇協同組合の協力を得て試作した。

ア 木材、国有林払い下げの杉材を利用

イ 型式 18型半台付標準型仏壇

成果

伝統的技術技法の標準化については、検討会、研究会を重ねて量産化に努力しているが、寸法の問題、特に塗装後に組立てる為に、塗り代りを2%にしないと組立て中に損傷を生ずるので、設計図もそのように訂正した。

18型標準仏壇もこれで解決したことになり、次年度は22型（大型）を研究試作する予定である。